2026年9月20日
T.Kobayashi

古事記に学ぶ その 32
終章 推古天皇・聖徳太子が見えてきた

<1> 欽明（きんめい）天皇

宣化天皇の腹違いの弟である天國押波流岐広庭命（あめくにおしはるきひろにわのみこと）が29代の欽明天皇となり、大和に師木島の大宮を造って天下を治めた。
この天皇は、先代の宣化天皇の御子である石比売命（いしひめのみこと）を妻として●八田王（やたのみこ）・●沼名倉太玉敷命（ぬなくらふとたましきのみこと）・●笠縫王（かさぬいのみこ）の三柱を生んだ。
また、石比売命の妹の小石比売命（をいしひめのみこと）を妻として、●上王（かみのみこ）を生んだ。
さらに、春日の●日爪（ひつま）の臣の娘●糠子郎女（ぬかこのいらつめ）を妻として、●春日山田郎女（かすがのやまだのいらつめ）・●麻呂古王（まろこのみこ）・●宗賀之倉王（そがのくらのみこ）を生んだ。
また、大臣の●宗賀之稲目宿禰（そがのいなめのすくね）の娘●岐多斯比売（きたしひめ）を妻として●橘之豊日命（たちばなのとよひのみこと）・●石垣王（いわくまのみこ）・●足取王（あとりのみこ）・●豊御気炊屋比売命（とよみけかしきやひめのみこと）・●麻呂古王（まろこのみこ）・●大宅王（おおやけのみこ）・●伊美賀古王（いみがこのみこ）・●山代王（やましろのみこ）・●大伴王（おおとものみこ：女）・●櫻井之玄王（さくらいのゆみはりのみこ）・●麻奴王（まぬのみこ）・●橘本之若子王（たちばなもとのわくごのみこ）・●泥杼王（とねのみこ）、以上13柱を生んだ。
また、岐多斯比売（きたしひめ）の叔母である●小兄比売（をえひめ）を妻として、●馬木王（うまきのみこ）・●葛城王（かづらぎのみこ）・●間人穴太部王（はしびとのあなほべのみこ）・●三枝部穴太部王（さきくさべぼあなほべのみこ）別名を●須売伊呂杼（すめいろど）・●長谷部若雀命（はつせべのわかささきのみこ）の5柱を生んだ。
この天皇の御子は、すべて合わせて25柱いた。
沼名倉太玉敷命（ぬなくらふとたましきのみこと）が次の天皇になり、橘之豊日命（たちばなのとよひのみこと）・豊御気炊屋比売命（とよみけかしきやひめのみこと）・長谷部若雀命（はつせべのわかささきのみこ）ものちに天下を治めた。

<2> 敏達（びたつ）天皇

欽明天皇と石比売命の間に生まれた沼名倉太玉敷命（ぬなくらふとたましきのみこと）が、30代の敏達（びたつ）天皇となって、14年間天下を治めた。大和の他田（おさだ）の宮に宮殿を構えた。
父である欽明天皇と岐多斯比売の間に生まれた豊御気炊屋比売命（とよみけかしきやひめのみこと）を妻として、八柱の御子を生んだ。御子の名前を羅列する前に・・・・・
つまり、この夫婦「敏達天皇と豊御気炊屋比売命」は腹違いの兄妹同士である。
生まれた御子は、●静貝王（しずかいのみこ）別名●貝蛸王（かいだこのみこ）・●竹田王（たけだのみこ）別名●小貝王（をかいのみこ）・●小治田王（をはりたのみこ）・●葛城王（かづらきのみこ）・●宇毛理王（うもりのみこ）・●小張王（をはりのみこ）・●多米王（ためのみこ）・●櫻井玄王（さくらいのゆみはりのみこ）。
また、伊勢の●大鹿の首（おおかのおびと）の娘である●小熊子郎女（をくまこのいらつめ）を妻とし

て、●布斗比売命（ふとひめのみこと）・●寶王（たからのみこ）別名糠代比売王（ぬかしろひめのみこ）を生んだ。
また、●息長眞手王（おきながのまでのみこ）の娘である●比呂比売命（ひろひめのみこと）を妻として、●忍坂日子人太子命（おさかのひこひとのみこのみこと）別名●眞呂古王（まろこのみこ）・●坂騰王（さかのぼりのみこ）・●宇遅王（うぢのみこ）を生んだ。
また、●春日中若子（かすがのなかつわくご）の娘である●老女子郎女（おみなこのいらつめ）を妻として、●難波王（なにわのみこ）・●桑田王（くわだのみこ）・●春日王（かすがのみこ）・●大俣王（おおまたのみこ）を生んだ。

この天皇の御子は17柱いたが、忍坂日子人太子命（おさかのひこひとのみこのみこと）が、異母妹の糠代比売王（ぬかしろひめのみこ）を妻として生んだ子がのちに34代舒明（じょめい）天皇になった。
この夫婦の第二子は●中津王（なかつのみこ）、第三子は●多良王（たらのみこ）。
また、●漢王（あやのみこ）の妹である●大俣王（おおまたのみこ）を妻として、●智奴王（ちぬのみこ）と●桑田王（くわだのみこ）を生んだ。
また、異母妹の櫻井玄王（さくらいのゆみはりのみこ）を妻として、●山代王（やましろのみこ）と●笠縫王（かさぬいのみこ）を生んだ。
敏達天皇の陵は、河内の科長（しなが）に造られた。

<3> 用明（ようめい）天皇

欽明天皇と岐多斯比売（きたしひめ）の間に生まれた橘之豊日命（たちばなのとよひのみこと）は、大和に池辺の宮を造って、第31代用明天皇と名乗って三年間天下を治めた。
この天皇は、大臣である●稲目宿禰（いなめのすくね）の娘●意富芸多志比売（おおぎたしひめ）を妻として、●多米王（ためのみこ）を生んだ。
また、異母妹である間人穴太部王（はしびとのあなほべのみこ）を妻として、●上宮之厩戸豊聡耳命（うえのみやのうまやどのとよとみみのみこと）・●久米王（くめのみこ）・●植栗王（えくりのみこ）・●茨田王（まむたのみこ）の四柱を生んだ。
また、当麻（たぎま）の倉首（くらびと）である●比呂（ひろ）の娘●飯女之子（いいめのこ）を妻として、●当麻王（たぎまのみこ）・●須賀志呂古郎女（すがしろこのいらつめ）を生んだ。
用明天皇の陵は、石寸（いわれ）の池のほとりにあったが、のちに科長（しなが）の中の陵に移した。
石寸（いわれ）の池は天香具山の山麓の旧地名で、科長（しなが）の中の陵は、大阪府南河内郡太子町になる。

<4> 崇峻（すしゅん）天皇

欽明天皇と小兄比売（をえひめ）の間に生まれた長谷部若雀命（はつせべのわかさざきのみこ）が、大和の倉橋に柴垣の宮を造って、第32代崇峻（すしゅん）天皇と名乗り四年間天下を治めた。
この天皇の陵は、倉橋の岡の上にある。（古事記本文の記述はこれだけだった。）

<5> 推古（すいこ）天皇

欽明天皇と岐多斯比売（きたしひめ）の間に生まれ、30代敏達天皇の后であった豊御気炊屋比売命（とよみけかしきやひめのみこと）は、第33代の推古天皇を名乗り、大和に小治田（おわりだ）の宮を造って、37年間天下を治めた。
この天皇の陵は、はじめは大野の岡に造られたが、のちに科長（しなが）の大陵に移した。
何となく尻切れとんぼのようではあるが、古事記最終章はこれにて終了となった。　　以上

●参考資料：古事記原文　https://www.seisaku.bz/kojiki_index.html

